

審判員派遣報告書

派遣事業名	第 77 回全日本大学 バスケットボール選手権大会	派遣期日	令和 7 年 1 月 3 日～1 月 4 日
報告者	大西 空	派遣先	神奈川県横浜市

1 大会概要

大会名称	第 77 回全日本大学 バスケットボール選手権大会	大会期間	令和 7 年 1 月 3 日～1 月 4 日
大会概要	各地区代表によるトーナメント戦		

2 担当試合

※ (試合内容は簡潔に書いてください)

日程	令和 7 年 1 月 3 日	会場	横浜武道館
審判クルー	CC: 佐田幸一氏 (山梨) U1: 稲田翔人氏 (東京) U2: 大西空 (報告者)		
担当試合	男子 1 回戦 同志社大学 (関西 4 位) VS 東海大学九州 (九州 1 位)		
試合内容	東海大学九州の勝利		

日程	令和 7 年 1 月 4 日	会場	横浜武道館
審判クルー	CC: 若林謙作氏 (栃木) U1: 田村高光 (秋田) U2: 大西空 (報告者)		
担当試合	男子 2 回戦 山梨学院 (関東 11 位) VS 日本大学 (関東 5 位)		
試合内容	日本大学の勝利		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

本大会は、事前研修等ではなく、自分の感じたことのみ報告させていただきます。

【男子1回戦 同志社一東海大学九州】

同志社が終始東海大学九州を追いかける展開でしたが、同志社の選手たちは諦めず最後まで戦っていました。

このゲームでは、選手たちの雰囲気と特徴をつかむのに時間がかかりました。また、両チームとも比較的にしゃべりかけてくることが多く、コミュニケーションと会話の時間がクルー3人の中で自分が圧倒的に多かったように思います。ですが、これは一概にいいことではありません。ルールブックにはゲーム中に審判とコミュニケーションを取れる人は限られています。その認識が甘かったと反省をしています。ルールブックに書いているからコミュニケーションを取ることがいけないという訳ではありませんが、過度に取ることは控える必要があります。一見冷たく感じますが、コミュニケーションにははっきりしたライン引きは必要です。登録上は何で登録しているか聞くこと、その返答次第できちんと貴方は審判とコミュニケーションは取れない事を説明し伝えること。それでもダメな場合はHCに説明しコントロールしてもらうことなど。県内、四国内では中々起こることが少ないので一つ自分の引き出しとして保管しておきたいと思います。

【男子2回戦 山梨学院一日本大学】

日本大学が前半から終始リードしていました。

このゲームは関東同士のゲームだったこともあり、お互い知らない中ではないような雰囲気のゲームでした。難しいケースが飛び交うことはなく、自身の目の前のプレーを吹き切ることができればある程度は選手もベンチも納得して進んではいました。ですがやはり、インテンシティが高ぶる選手、それに繋がる一連のプレー、判定。1つ1つこだわって常に何が起こっても説明準備をする必要があると感じました。吹かれた選手は不満をもって話してきます。それをどう抜くかどう次のプレーに集中してもらうかこのゲームはそんなシーン多くはありませんがありました。

また、笛の使い分け。昨今、ペイシェント、ケイデンス、イミディエイトなど笛の吹くタイミングを良く言われますが、全部が全部ペイシェントするのではゲームはまとまらないですし、??と思わせてしまうことがあります。しかし、このゲームレベルで全てをイミディエイトしてしまうと、タフにさせたいのかどうさせたいのか分かりません。その為、笛の使い分けは大事だと思いました。

とても、充実した2日間でした。ゲーム、選手共に大学バスケの最高峰の大会に審判員として立てたのは非常に勉強になりました。

ありがとうございました。

4 その他

放送で見るより、現地で熱量を感じるのは非常に自身のためになると思いました。県内審判員に少しでも自身の経験を還元できるように尽くします。

今回の派遣に際して、ご支援いただいた香川県バスケットボール協会の皆様に、心より感謝申し上げます。経験したことを県内に還元できるよう、より一層活動に励んで参ります。引き続き、ご指導のほどよろしくお願ひ致します。